

姉妹都市東京都小平市との北海道・小平町を知るオンライン地域連携講座の実践



小平町教育委員会 長澤政之
さすけなぶる認定ファシリテーター

姉妹都市交流のこれまでと現状

- 昭和53年(1978) 東京都小平市と姉妹都市に
 - 昭和54年(1979) 児童生徒を対象にした姉妹都市交流事業開始
小平市の「市民まつり」に産直や郷土芸能の参加などで交流を進めてきた。
 - 新型コロナウイルス感染症が始まるまで交流は途絶えることなく、令和元年度までで小平町から1,210人の児童生徒、小平市から1,378人の児童生徒が交流事業に参加している。
 - 小平市ではタイヤ工場の見学、市内(玉川上水)散策、平櫛田中彫刻美術館見学、FC東京を訪問、東京ディズニーランド、都内観光を経験
 - 小平町では、化石発掘体験、番屋見学(宿泊した年も)、陶芸体験、海洋スポーツなどを体験
- ⇒近年では、親子で姉妹都市交流に参加した「姉妹都市交流事業参加2世」も参加するようになっていた。

途絶えた姉妹都市交流

- 新型コロナウイルス感染症の流行

令和2年、令和3年と姉妹都市交流事業が中止に
市民まつりへの物産交流も途絶

- 小平市中央公民館季高館長からの呼びかけ

「こういう時期だから姉妹都市の小平町を学ぶ講座を、オンラインで
結んでやりたい。」

→そういうことならやりましょう！

以後、小平市中央公民館の高村さんを窓口の内容を詰めることに

内容をめぐる「すれ違い」

①開催回数について

「1回かな」と思っていたら、計5回の連続講座の企画
→重い!!!。どうしよう???

②「アイヌ」に触れてほしい

ウポポイ効果かな。「留萌管内からアイヌの話か…。留萌管内は北海道のアイヌ生活実態調査でも、0人とされている。」
→当事者性に欠くんじゃないかな??????

③「おびら」だから化石と旧花田家番屋は入れてよ

なんてやり取りを進めながらできたのがこんなメニュー

できた講座が、こんなもの

日程	テーマ	講師
第1回 10月15日	先住民族と小平町	長澤 政之さん（小平町教育委員会職員）
第2回 10月21日	アイヌ民族の撮影を29年間続けて	宇井 眞紀子さん（写真家）
第3回 10月30日	小平町の化石	佐藤 たまきさん（東京学芸大学准教授）
第4回 11月19日	北海道の歴史のなかの小平町	長澤 政之さん（小平町教育委員会職員）
第5回 11月26日	旧花田家番屋からみた小平町	

第2回を除く、すべての講師と内容は小平町からの提案。

第3回の講師の佐藤たまきさんの勤務先、東京学芸大は小平市の隣町、小金井市にあり、佐藤さん自身は小平市在住。まさに姉妹都市の縁を感じる講座になった。

講座のスライドや概要はチャット欄で共有します。

「すれ違い」を通して、決めた覚悟

- ①全5回のうち、3回の講師を引き受けた
→そのかわり、好きなことやろう！
- ②「北海道は開拓者の大地、もっと高度な自治が発達してよかった」（IIHOE川北秀人さんの実践交流セミナーでの発言）への違和感
→歴史学の立場からも、無批判に「開拓」を賛美するのはいただけない。（類例は、後述する日ハム巨大バナー広告）ただ、「高度な自治」が発達しなかったのは、北海道民に「開拓以前」につながるアイデンティティーが弱いからではないか。
- ③「アイデンティティー問題では食えない」（NPO教育支援協会吉田博彦氏）
→「高度な自治」には、アイデンティティーが重要で、アイデンティティー問題では確かに「食えない(仕事を生まない)」が、北海道ではとても大事なんじゃないか。

「姉妹都市の小平町・北海道をのぞいてみよう」の内容紹介

- 第1回 先住民族と北海道、小平町 長澤政之
日本列島北方史の立場から、アイヌ民族の歴史を考えてきた「私」から見た「アイヌ」を語ることの難しさ（非当事者であること）、経験や体験の位相の違いなどによる「アイヌ」が「アイヌ」を語ることの難しさ（サイレント・アイヌ）の問題。
小平町出身でアイヌ民族運動に身を投じ、夭折した詩人新谷行の生涯。
→現在、アイヌ民族が0人とされる留萌管内でも当事者性をもってアイヌ民族を語る事ができる

「姉妹都市の小平町・北海道をのぞいてみよう」の内容紹介

- 第2回 アイヌ民族の撮影を29年間続けて 宇井真紀子

小平市選定の講師。講座は参加できなかったのですが、内容に言及はできないが、私も北海道大学アイヌ先住民センターのシンポジウムで一緒したことがある。

「アイヌ民族の、いま」

「姉妹都市の小平町・北海道をのぞいてみよう」の内容紹介

- 第3回 小平町の化石 佐藤たまき

小平町推薦の講師。小平市在住。東京学芸大学の所属。クビナガリュウの専門家で小平町にも毎年のように訪れる。

「姉妹都市の小平町・北海道をのぞいて みよう」の内容紹介

- 第4回 北海道の歴史のなかの小平町 長澤政之

小平町の遺跡や歴史を北海道史の通史の中に落とし込み、小平町の「来し方」を知り、アイデンティティの核づくりを企図した。

「姉妹都市の小平町・北海道をのぞいてみよう」の内容紹介

- 第5回 旧花田家番屋から見た小平町 長澤政之

冒頭受講生の要望により、小平町の地理的な状況、人口動態について触れる。

北海道の鯨漁が日本全国に及ぼしたインパクトを理解して、その結果として、かくも巨大な「旧花田家番屋」が残されたことを知る。ビデオカメラ映像による旧花田家番屋案内を組み込む。

やってみて

- 「道外の人、おびら・北海道の話喜ぶかな？」
予想に反して、好評だった。他人のアイデンティティに触れることは「刺激的」。
- オンライン講座、うまくいくかな
小平市の機材整備や職員の運営により、非常にうまくいった。
難点があるとすると、コンピューターの向こうに観客がいることを意識できれば、よかったかな。（講師が先走るとダメ）
- これ、おびら会場も受講生(観客)を作っておけばよかった
これだけよその人に面白がられたら、自信や勇気につながるよね。